

図書資料を調べる

水谷正大

2015年7月5日

目次

1	書籍の世界を広げよう	1
2	図書館の書誌情報を調べる	2
3	参考文献情報の書き方と引用方法	2
4	パッケージ hyperref を使う	5
4.1	hyperref の使い方	5
4.2	文献情報は徹底的に調べ上げる	6
4.3	hyperref の課題とその解決	7

1 書籍の世界を広げよう

書籍の世界を広げることは、自分の生きている世界を広げることでもある。

図書館に収蔵されている書籍・資料は、開架式（自由に手にとって閲覧できる図書収蔵形態）と閉架式（一般には開架されておらず、収蔵庫に保管されていて申し出て閲覧できる形態）に大別される。開架式図書資料は、館内を歩き回って図書を発見し、実際に手にとって中身を閲覧できるのが醍醐味だ。もちろん、書籍だけでなく、音楽や映画なども楽しむことができる。

館内巡回を繰り返すと、新しくなった差分に気づくようになる。新しい書籍をチェックしていけば新たに収蔵される図書を把握することができるわけだ。興味ある書棚を選んで定期巡回の習慣をつけると、その分野を全蔵書を知ることができるようになる。今すぐ、図書館巡回の旅に出発しよう。

2 図書館の書誌情報を調べる

図書館は世界への入り口である。大東文化大学 OPAC: <http://opac.daito.ac.jp/opac/> で蔵書検索してみよう。OPAC (Online Public Access Catalog) とは図書館が作成して公共利用に供されるオンライン蔵書目録で、公共図書館や各大学ごとに蔵書検索サービスを公開している。収蔵されているかどうか不明な書籍、探している書籍について、その一部だけでも何らかの情報がある場合 (たとえば、著者名の一部、書籍名の一部)、オンライン検索がたいへん便利である。

日本最大の図書館である国立国会図書館サーチ: <http://iss.ndl.go.jp> はもちろんのこと、国立情報学研究所: <http://www.nii.ac.jp> が提供している大学間の横断図書検索サービス CiNii books: <http://ci.nii.ac.jp/books/> は大変便利である。是非利用しよう。

3 参考文献情報の書き方と引用方法

L^AT_EX で参考文献や資料を記述するには、thebibliography 環境を使って (大抵の文書では文末に) 以下のように資料情報を列挙する。{ラベル名}のラベル名には、空白なしの意味がわかるような英数字文字列 (名前や書名など) とするとよい。詳しくは<参考文献情報の書き方> に説明がある。

```
\begin{thebibliography}{99}
\bibitem{fukuzawa} 『学問のすゝめ』 福沢諭吉 (1872) (講談社学術文庫, 2006)
\bibitem{right} 『人権宣言集』 高木 八尺 末延 三次 宮沢 俊義編 (岩波文庫, 1968)
\bibitem{udhr} 『\href{http://www.ohchr.org/EN/UDHR/Pages/Language.aspx?LangID=jpn}
{世界人権宣言 http://www.ohchr.org/EN/UDHR/Pages/Language.aspx?LangID=jpn}』
第3回国連総会採択 (1948.12.10 )\
\href{http://www.ohchr.org}{国連人権高等弁務官事務所}
(OHCHR:Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights) では、
\href{http://www.ohchr.org/EN/UDHR/Pages/SearchByLang.aspx}{300以上の言語で「世
界人権宣言の全文」}を掲載している。
\end{thebibliography}
```

本文中で参考資料を明示する必要がある箇所 (記述内容の根拠を示したり、引用した箇所など) では、文献番号を直接書くのではなく、\cite{ラベル名} のようにすると参考資料番号がタイプセットされる。このラベル名で、thebibliography 環境内で\bibitem{ラベル名}と列挙した文献番号が参照される。

ここで理解すべきことは、大切なことは、文末にある参考文献の文献番号と本文中の文献番号とが (2 回続けてタイプセットすれば) 常に正しく対応付けできることだ。文書作成途中でも文献を追加したり文献の列挙順を入れ替えて文献番号が変わったとしても、いつも '正しい' 文書であるこ

とが保証される。

参考料を引用する場合、本文内に埋め込むやり方以外に、たとえば次のように書くと分かりやすい。

福沢諭吉は『「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。』とっている [1]。

長く文章を引用する場合には、quotation 環境を使って、次のようにすると引用したことがわかりやすくなる。

```
\begin{quotation}
```

身分重くして貴ければおのずからその家も富んで、下々しもしもの者より見れば及ぶべからざるようなれども、その本もとを尋ぬればただその人に学問の力あるとなきとによりてその相違もできたるのみにて、天より定めたる約束にあらず。

諺ことわざにいわく、「天は富貴を人に与えずして、これをその人の働きに与うるものなり」と。

されば前にも言えるとおり、人は生まれながらにして貴賤・貧富の別なし。

ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人にんとなるなり。

学問とは、ただむずかしき字を知り、解げし難き古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を言うにあらず。

これらの文学もおのずから人の心を悦よるこぼしめずいぶん調法なるものなれども、古来、世間の儒者・和学者などの申すよう、さまであがめ貴とうとむべきものにあらず。

古来、漢学者に世帯持ちの上手なる者も少なく、和歌をよくして商売に巧者なる町人もまれなり。

これがため心ある町人・百姓は、その子の学問に出精するを見て、やがて身代を持ち崩すならんとて親心に心配する者あり。

無理ならぬことなり。

畢竟ひっきょうその学問の実に遠くして日用の間に合わぬ証拠なり。 \par

```
\hfill 福沢諭吉『学問のすゝめ』 \cite{fukuzawa}
```

```
\end{quotation}
```

これをタイプセットすると、次のように段落ごと字下げされて読みやすくなる。

身分重くして貴ければおのずからその家も富んで、下々しもしもの者より見れば及ぶべからざるようなれども、その本もとを尋ぬればただその人に学問の力あるとなきとによりてその相違もできたるのみにて、天より定めたる約束にあらず。諺ことわざにいわく、「天は富貴を人に与えずして、これをその人の働きに与うるものなり」と。されば前にも言えるとおり、人は生まれながらにして貴賤・貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴

人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人げにんとなるなり。

学問とは、ただむずかしき字を知り、解げし難き古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を言うにあらず。これらの文学もおのずから人の心を悦よるこぼしめずいぶん調法なるものなれども、古来、世間の儒者・和学者などの申すよう、さまであがめ貴とうとむべきものにあらず。古来、漢学者に世帯持ちの上手なる者も少なく、和歌をよくして商売に巧者なる町人もまれなり。これがため心ある町人・百姓は、その子の学問に出精するを見て、やがて身代を持ち崩すならんとて親心に心配する者あり。無理ならぬことなり。畢竟ひっきょうその学問の実に遠くして日用の間に合わぬ証拠なり。

福沢諭吉『学問のすゝめ』[1]

1948年12月10日の第3回国際連合総会で採択された世界人権宣言 (Universal Declaration of Human Rights) [2] は、すべての国・地域およびすべての人々が達成すべき基本的人権についての宣言で、毎年12月10日を「世界人権デー」としている。この世界人権宣言は多くに言語に翻訳されている。以下は、たいへん悪文であるが国連による‘正式な日本語訳’である [3]。是非、たとえば英語文と比較してほしい。

人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義及び平和の基礎であるので、
人権の無視及び軽侮が、人類の良心を踏みにじった野蛮行為をもたらし、言論及び信仰の自由が受けられ、恐怖及び欠乏のない世界の到来が、一般の人々の最高の願望として宣言されたので、
人間が専制と圧迫とに対する最後の手段として反逆に訴えることがないようにするためには、法の支配によって人権を保護することが肝要であるので、
諸国間の友好関係の発展を促進することが肝要であるので、
国際連合の諸国民は、国連憲章において、基本的人権、人間の尊厳及び価値並びに男女の同権についての信念を再確認し、かつ、一層大きな自由のうちで社会的進歩と生活水準の向上とを促進することを決意したので、
加盟国は、国際連合と協力して、人権及び基本的自由の普遍的な尊重及び遵守の促進を達成することを誓約したので、
これらの権利及び自由に対する共通の理解は、この誓約を完全にするためにもっとも重要であるので、
よって、ここに、国連総会は、
社会の各個人及び各機関が、この世界人権宣言を常に念頭に置きながら、加盟国自身の人民の間にも、また、加盟国の管轄下にある地域の人民の間にも、これらの権利と自由との尊重を指導及び教育によって促進すること並びにそれらの普遍的措置によって確保することに努力するように、すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準として、この人権宣言を公布する。

『世界人権宣言』前文 [3]

UNESCO の「世界の記憶 Memory of the World」として 2003 年に登録された「人間と市民の権利の宣言」（「フランス人権宣言」として知られている）は、自由、平等、三権分立を含む 17 条からなるフランス革命の基本理念を著した文書である [4]。

4 パッケージ hyperref を使う

L^AT_EX でタイプセットした PDF ファイルにハイパーリンクを埋め込むためには、パッケージ hyperref と pxjahyper を使う（その実際は<ハイパーリンク付き LaTeX 文書> に説明してある）。hyperref は T_EX システムに同梱されているが、pxjahyper を別途ダウンロードして、PC 内の然るべき場所においておく必要がある*¹。

L^AT_EX ソースファイルには、プリアンブル部(`\documentclass{jsarticle}` と `\begin{document}` との間) に次のように利用するパッケージ（とパラメータ）を記述する。

```
\usepackage[dvipdfmx]{hyperref}
\usepackage{pxjahyper}
\hypersetup{
  setpagesize=false,
  bookmarksnumbered=true,%
  bookmarksopen=true,%
  colorlinks=true,%
  linkcolor=blue,
  citecolor=red,
}
```

4.1 hyperref の使い方

パッケージ hyperref（と pxjahyper）を使うと宣言するだけで、`\tableofcontents` によって目次を表示し、thebibliography 環境を使って参考資料を列挙して本文中で`\cite{ラベル名}`で文献番号を表示させていれば、タイプセットされて生成される PDF ファイル内に自動的に目次や文献番号から該当箇所にリンクが張られる。長大な文書を作成する場合、L^AT_EX の相互参照とパッケージ hyperref の組み合わせは欠かせないことが了解されるはずだ。

さらに、パッケージ hyperref を使えば PDF ファイルからインターネット上にある情報にリンクを張ることもできる。次のように書くだけである。

*¹ 詳しくは<TEXMFHOME の利用> に説明している。大東 Mac(MacTeX) の場合では Finder に表示される家（ホーム）のアイコン内に、大東 Windows(w32tex) では "C:\User\ ユーザ" 内に texmf という名前のフォルダをおき、さらにその中にフォルダ tex を作成する。このフォルダ tex 内に、pxjahyper をダウンロードしてから展開して得られるフォルダ PXjahyper-master をおくのである。つまり、ユーザホーム記号を '~' と書くことにすれば、パッケージフォルダの置き場所は ~/texmf/tex/PXjahyper-master となる。

`\href{目的の情報への URL}{リンク文字列}`

たとえば、次のように書いてみる。

`\href{http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/udhr/}{外務省：人権人道}`

これをタイプセットしてリンク文字列 **外務省：人権人道** をクリックするとブラウザが立ち上がり、指定した URL ページが表示される。

この機能を使って、図書館の蔵書書誌情報のページにリンクしてみよう。「学問のすゝめ」^[1]を大東文化大学図書館の蔵書検索で検索して得られる書誌情報ページの URL を使って次のように書く。ただし、ここでは文書幅を考慮して URL 途中で改行しているが、実際には改行しないで記述（実際にはペースト）する。

`\href{http://opac.daito.ac.jp/opac/opac_details.cgi?lang=0&amode=11
&place=&bibid=2060500008&key=B141818184631708}{学問のすゝめ}`

と書くことで、『**学問のすゝめ**』からリンクを張ることができる。リンク文字列「学問のすゝめ」をクリックすると、書誌情報ページが開くことになる。文末の文献リストにおいて、書籍は大東文化大学図書館所蔵の書誌情報ページにリンクしてある。

4.2 文献情報は徹底的に調べ上げる

文書作成で直接参照した資料だけでなく、1次資料（原典）に遡って（それらに目を通して確認する）徹底的に調査して、読者が信頼できる参考文献リストを作成することは、文書（とその作者）の信頼性に大きく貢献する。翻訳資料を利用した場合には原典の書誌情報も記載する（たとえ、翻訳書籍を参考にしたとしても原典の書誌情報を確認し掲載しておくことは最低限のマナーである。

見知らぬ読者が自分の書いた文書を読んで深く学ぶことができるように書いてあるか、この眼差しの有無が読むに値する文書であるための出発点だ。

参考文献リストでは、文献内容それ自身がインターネットで閲覧できる場合には、書名から該当ページへリンクしておこう。文献が古典に属する場合には、**Project Gutenberg** などで直接閲覧できる場合が少なくない。また、各国の国家事業としてデジタルイメージとして原典が閲覧できる場合もある（日本の場合、**国立国会図書館デジタルコレクション**が有名だ）。

文書を読むに当たっての基本的な前提となる用語の定義や意味などをすべて記述することは簡素で明瞭な文書と両立しない。そのためにも適切な参考文献リストが必要であるのだが、参考文献リストだけでなく、文中に登場する用語をリンク文字列とした適切なハイパーリンクを読者が必要に応じて参照できるような配慮がなされた文書を今日の標準としたい。

さらにはその本文が参照できる場合にはそのページへのリンクを埋め込んでおく。インターネットを活用する意味はそこにある。

4.3 hyperref の課題とその解決

悩ましいことがないわけではない。次の 2 点が問題になる場合があるが、解決可能である。詳しくは<[hyperref の問題克服](#)> で説明している。

リンク文字列に特殊文字が含まれる リンク文字列に特殊記号があつて、タイプセットに失敗する。リンク文字列として URL それ自体を記載することも大切だ（印刷して読む人もいるからだ）。リンク文字列にアンパサント ‘&’ やアンダーバー ‘_’ があると、タイプセットに失敗する。また ‘%’ は行末までコメントとして扱われて表示されなくなってしまう。これらの文字は L^AT_EX では特殊記号（特別な役割を持たされている文字）だからである。<[特殊文字や通貨記号と簡単な数式](#)> に説明してあるように、文字として表示するためにはバックスラッシュ ‘\’ をつけてエスケープして、‘\&’、‘_’、‘\%’ と書く。また、チルダ ‘~’ は ‘\textasciitilde{ }’ と記す。

URL に英数字以外の文字列が含まれている URL に日本語・中国語やフランス語・ドイツ語など英数字以外の文字列が含まれている場合は配慮が必要である。Web ブラウザに表示されたこの URL（下記のように URL エンコードされて表示される IE のような Web ブラウザがある）をコピーして参考資料として文書にペーストすると、これがそのまま文書に印刷された場合にはその URL に当たって参照しようとする気も起こらない。そもそもどんな Web ページかも分からないような資料の列挙の仕方自体が論外である。

一方、URL エンコードされた URL が Web ブラウザに表示されている場合には、復号化して可読な URL に変換するのである。

URL に日本語などの文字種が含まれる場合、URL を URL エンコードする。Web サービス [URL エンコード・デコード: http://tech-unlimited.com/urlencode.html](http://tech-unlimited.com/urlencode.html) に、URL 内の記号 ‘:’ や ‘/’ 以外の問題の文字列を入力して、変換して得られる文字列が URL エンコードである。

Wiki『学問のすゝめ』の URL は ‘<http://ja.wikipedia.org/wiki/学問のすゝめ>’ である。この場合、「学問のすゝめ」を UTF-8 変換（エンコード）すると

`%E5%AD%A6%E5%95%8F%E3%81%AE%E3%81%99%E3%82%9D%E3%82%81`

が得られる。これをつかって、URL として

`http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%A6%E5%95%8F%E3%81%AE%E3%81%99%E3%82%9D%E3%82%81`

とするのである。しかし、これをそのまま参考文献としては絶対だめである（これをそのまま正しく入力できる読者はいないからだ）。

hyperref パッケージを使って日本語などを含む URL 文字列をリンク文字列として、URL エンコードされた文字列にリンクするように書くのが正しい。次の例は、LaTeX ソースファイルには{...}内を一行で書くべきであるが、印刷上の配慮のために、ここでは改行して記してある。

```
\href{http://ja.wikipedia.org/wiki/
%E5%AD%A6%E5%95%8F%E3%81%AE%E3%81%99%E3%82%9D%E3%82%81}
{http://ja.wikipedia.org/wiki/学問のすゝめ}
```

当然のことであるが、実際にタイプセットして目的のページにちゃんとアクセスできるかを必ず確かめよう。

参考文献

- [1] 『学問のすゝめ』 福沢諭吉（1872）（講談社学術文庫, 2006）
青空文庫版: <http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/card47061.html>
- [2] 『人権宣言集』 高木 八尺 末延 三次 宮沢 俊義編（岩波文庫, 1968）
- [3] 『世界人権宣言 <http://www.ohchr.org/EN/UDHR/Pages/Language.aspx?LangID=jpn>』第3回国連総会採択（1948.12.10）
国連人権高等弁務官事務所（OHCHR:Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights）では、**300 以上の言語で「世界人権宣言の全文」**を掲載している。
- [4] 『人間と市民の権利の宣言（フランス人権宣言）』（1789 年、[2] に収録）
原文：<http://www.legifrance.gouv.fr/Droit-francais/Constitution/>から **Déclaration des Droits de l'homme et du Citoyen de 1789** を閲覧できる。